

2015年3月31日

伊藤大使の白ナイル州水公社研修センター視察

2015年3月4日に、伊藤大使が白ナイル州において本プロジェクトで支援している同州水公社研修センターを視察されました。

日本大使の同研修センターの訪問は、2013年11月の堀江大使に続いて2回目になります。大使の訪問は、日本側が白ナイル州のプロジェクト成果に強い関心を持っていることを示す絶好の機会となり、水公社職員のモチベーションの向上につながりました。白ナイル州水公社では、水公社総裁が、日本による技術協力の成果に謝辞を表明しました。

その後、水公社総裁の別邸でカジュアルな夕食会が開催されました。夕食会の際に、白ナイル州水公社総裁は伊藤大使に是非紹介したいものがある、とってガーデンに大使をご案内しました。それはソバの花でした。このソバはプロジェクト開始当初、人材育成の持続的な発展を願って、上村総括より白ナイル州水公社総裁に贈られたものです。現在、3回目の収穫を終え4世代目が元気に花を咲かせています。このソバのように、厳しい自然環境で、日本がまいた種が育ち、発展してゆくことを願ってやみません。

<伊藤大使のご訪問>



第 9 回合同調整委員会 (Joint Coordination Committee : JCC) の開催

第 9 回の合同調整委員会が 2015 年 3 月 11 日に飲料水・衛生局 (Drinking Water and Sanitation Unit: DWSU) の大会議室で開催されました。

会議には 48 名の関係者が参加し、各州の水公社総裁または幹部職員、日本側の関係者 (大使館職員、JICA 事務所) の参加の他に、国際機関からの参加が目立ちました。UNICEF (国際児童基金)、IOM (国際移住機関)、UNOPS (国連プロジェクトサービス機関)、ICRC (赤十字国際委員会)、AfDB (アフリカ開発銀行) などから 7 名が参加しています。これはスーダンの給水セクターにおける人材育成の活動が国際機関から注目を浴びつつあることを示しています。

会議の開催目的は、本プロジェクトの成果進捗報告と終了時評価調査団による評価結果の説明の 2 つです。

このプロジェクトの目的は、スーダンの給水分野における人材育成の体制づくりのため、中央のハルツームにある飲料水・衛生局研修センター (DWST) への支援、パイロット州 (白ナイル州・センナール州) の研修センターの運営支援、そして、それらの成果をパイロット州以外の州と情報共有し、普及することです。

今回の会議では、パイロット 2 州が、これまでの 3 年間の研修実績を踏まえて今後 3 年間の研修実施計画を発表するとともに、整備が進んだモニタリングシステムについても発表しました。

終了時評価調査団からは、プロジェクト終了を見据えていくつかの提言がなされました。一つは、各州間のグッドプラクティスの学び合いを促進するために実施しているジョイントセミナーをプロジェクト終了後も継続していけるような仕組み作り (ステアリングコミッティの創設等) です。また、近年国際機関から DWST 及び各州の人材育成が注目されていることから、ウェブサイト等を通じた情報公開を促進する必要性についても提言しました。



JCC 参加者



モニタリング組織の説明



終了時評価の結果概要説明